メソポタミア文明

都市文明の形成

前４０００年紀　この時期の初め頃、最初の都市文明が形成された。その代表がユーフラテス下流の左岸にある**ウルク**（現在のワルカ）である。またウルク遺跡から楔形文字を記した粘土板が大量に見つかっており、これが最古のまとまった楔形文字資料である。このメソポタミア南部の都市文明を成立させたのは**シュメール人**（民族系統は不明）と言われている。

シュメール初期王朝　前３０００年紀のシュメール初期王朝（前 2900～2335 年頃）時代には、ウルク、ラガシュ、ウル、ニップルなど２０ほどの都市国家が形成された。シュメール人は青銅器や楔形文字を用い、多神教信仰、ギルガメッシュ叙事詩などの文化を産みだした。

（「世界史の窓」）